

(様式2) 平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112342	
法人名	有限会社ケアランドあきた	
事業所名	グループホームうららか	
所在地	秋田市御所野元町四丁目2-3	
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市將軍野桂町5番5号
訪問調査日	平成25年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気ままにゆったりマイペース、を理念のひとつとして、家庭的な雰囲気と街の一員として生活を続けていくこと。ホームドクターによる定期往診や看護師の配置により、入居者、ご家族、職員共健康管理面での不安を軽減し、安心して共同生活介護を継続していけるよう体制をとっている。また、人員配置も日勤帯および早朝、夜間に増員配置し職員の業務負担の軽減と突発事案への対処にあたると同時に、より入居者と接する時間、対話の機会を生んでいる。入居者の家族の見舞い、死別への対応もホーム外生活支援を試みている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、大型ショッピングセンターを控えた閑静な住宅地に位置し、事業所の設立当初から地域と密接な関わりを持っており、これからも積極的に情報開示を行ない、地域とともに歩もうとしている。利用者支援の理念「気ままに・ゆったり・マイペース」が掲示され、それに伴う職員の「業務は明るく厳しく」など、職員のあるべき姿を明らかにしている。「笑顔が一番のユニフォーム」の言葉通り、職員一人ひとりの笑顔は利用者とその家族も認めているところであり、実際、職員が制服を着用しない事業所でもある。当事業所は管理者の見識と職員の徹底した話し合いの積み重ねによって運営されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」に常に目が届くようにし、意識してケアの実践に取り組むことができています。	利用者が墨書した「気ままに・ゆったり・マイペース」をホーム内に掲示し、これを達成するための理念をかかげ、実践に向けて職員間で話し合いを重ねている。	数ある理念を、地域密着型事業所としての観点から見直してみることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元神社の祭典、かまくら祭り、夏祭り等に参加している。	管理者は町内会と積極的に関わり、地元の神社の祭典・かまくら祭り・夏祭り等に協賛している。利用者も参加し、イベントを楽しんだり、利用者に配慮されたお汁粉などをいただきながら楽しんでいる。管理者が老人クラブの立ち上げに尽力し、現在1名の入居者がメンバーになっている。隣家とは回覧板や畑作物をいただいたり、民謡ボランティアの訪問に招待したりとさり気ない交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、最新の動向を伝える機会をつくるとともに、老人クラブ世話役、民生委員とも随時面談している。施設長自身が町内会の会合等に積極的に出席している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価を配布し、意見を伺う機会があるが、具体的な向上の取り組みまでには繋がっていないと言えない。	運営推進会議には家族の参加が得られる一方で、地域の事情により町内会長、民生委員の出席が得られない状況が続いている。安定的に開催するための方策を検討しているところである。	地域の事情に寄り添いながら、定期的な開催に向けて、人選や会議の内容等も合わせて検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が県、市の連絡会、および日本認知症グループホーム協会ケアパートナーズの役員を務めていることもあり、情報交換の機会は増えている。	管理者が各種団体の役員を務めており、得られた情報はミーティングや運営推進会議等で共有している。市GH協会による遊学舎での合同作品展に出品し、利用者が見学したり、GH間の職員の相互訪問による技術交流も行なう予定である。行政にはタイムリーな情報を提供しているが、少し温度差があると感じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で全職員が認識できるよう、勉強会等を行っている。	ミーティング等で絶対に拘束しない支援について話し合っている。現在拘束している利用者はいないが、管理者は、場合によっては拘束する必要性の判断力も求められるとしている。外出したい方には終始付き添い、近隣の危険箇所をチェックし、地域交番にも協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施しているほか、ミーティング、カンファレンスの場でも課題としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人の入居者のご家族が、成年後見制度を利用しており、担当の司法書士と会う機会もある。研修についてはまだ実践できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、看護師、計画作成担当者それぞれが、入居者本人とご家族の要望や注意点について、面談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価等を機会として、浮き上がったテーマを計画と支援の手段に反映できるよう、ミーティングやカンファレンス、および担当者会議の課題にしている。	特定の機会を設けず、あらゆる場面を捉えて利用者や家族の思いや意見を聞くように努めている。家族と一体で利用者を支えていくという観点から、担当職員が入居者家族に毎月「お便り」を送付して、日常の様子を詳しく伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、および担当者会議の課題にしている。	管理者は月1回のミーティングを開催し、職員が積極的に意見を出し、じっくり時間をかけて業務内容やケース毎の検討を行ない、管理者のリーダーシップによって解決している。当事業所は、特に人員配置に余裕を持たせることで、利用者の支援内容の変更等に適切に対応し、職員の福利厚生にも配慮出来ている。必ず休憩室で休憩を取ることなどにも配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが、より公正な判断基準として職員の自己評価と相互評価、所属長の評価を総合した体系づくりが課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が県、市の連絡会、および日本認知症グループホーム協会ケアパートナーズの役員を務めていることもあり、研修事業も企画にも携わっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と職員がケアチームとして全力で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	双方向で気軽に連絡を取り合える関係づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先達として敬い、一つ屋根の下で共に生きている間柄としての関係性もできるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当職員がご本人の状況を「お便り」として書面でご家族に郵送している。情報を共有することで、ご家族と共にご本人を支え合っているという意識、関係が築かれるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人等、関係が継続できるように、気安く面会や電話に取り次ぎが行えるように配慮している	事業所は、アセスメントやその後のコミュニケーションで知り得た利用者の生活暦を、職員が共有するとともに、電話や面会、外出等に出来る限りの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で馴染みの関係ができています。難聴者には、職員が間に入り会話の取次ぎを行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他業種および医療機関への移行に対し、情報提供を中心とした継続支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的な訴えや希望を伝えることができない事が多いため、日々のかかわりの中からや、生活歴・家族からの情報を下に、本人本位のプランとなるように心掛けている。	日常のふれあいのなかから汲み取ることが最も重要と考えている。場合によっては仮説を立てて対応することもある。各方面からの情報も参考にしているが、職員同士が情報を共有し合って支援することが重要であるとしている。日々の記録用紙の改善を検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご本人を支える周囲の方々、また入居以前の支援関係者等からの情報をできるだけ得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状況を記録する日誌と個別の記録を記載し、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に話し合いの場は設けていない。ご本人とは日々のかかわりの中で、ご家族からは随時の聞き取りを行っている。職員間では毎月のミーティング時に気付きや意見を出してもらい、現状に合ったケアが行えるようにしている。	介護計画はミーティングで話し合われた内容をもとに管理者、ケアマネージャー、看護師による計画作成担当者会議によって作成されている。6ヶ月ごとに見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、日誌の記入はされている。毎月のミーティングで情報共有を再確認し、ケアの実践や見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り利用している		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が月2回あり、かかりつけ薬局より処方してもらっている。訪問歯科は、利用者の希望時に随時利用している。	月2回、かかりつけ医からの往診があるが、従来からのかかりつけ医を希望する場合は、そのまま継続している。当事業所は看護師が常駐しており、夜間、休日を問わず緊急時は看護師の指示を受けている。「救急持ち出しカード」を整備し、緊急通院等に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師へ情報や気づきを申し送りし、かかりつけ医との連携がスムーズに図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクターの紹介状で円滑に医療機関を受診できている。 入院の際も、入院先とホームドクター、ホーム間における連絡体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス、および担当者会議の議題にしているほか、ご家族とも協議している。これに関しては、地域の関わりはない。	事業所内で検討を重ねた結果、入居時に、利用者と家族に対して当事業所ができることと出来ないことを良く説明し、利用者が食事の経口摂取ができなくなった時点で、医師を交えて家族と話し合いを持つことを了解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に実践研修として、救命訓練を取り入れたりもしている。 救急持ち出しカードを準備し、救急搬送に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	随時、防災訓練を行っている。今後も訓練を重ねると共に、地域の協力要請と手法を練っていく。	火災に備えて24年度スプリネックスを設置している。また、自動火災報知機を備え、発電機・ストーブ・非常用食品等を準備している。避難訓練は、通報訓練、夜間想定訓練を含め、年2回行なっている。2階の個室部分から階段を利用して避難する方法についてもミーティングで想定している。非常時には地域の公民館を借りることを了解してもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴時、排泄時においては、プライバシーの確保と羞恥心について共感を持って対応している記録も、個人情報記載物については取り扱いに留意している。	理念にこめられているように、利用者一人ひとりのペースを尊重することを職員が確認しながら支援に当たっている。排泄・入浴に関しては、特に一人ひとりの羞恥心に配慮し、それぞれ個別の方法で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に合わせ、選ぶ対象を目の前に提供したり、平易な言葉で説明するなど自己決定ができれば叶えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとしてある程度のスケジュールは作られているが、利用者の状況を考慮しながら柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	2ヶ月に1回訪問理容を利用している。一名の入居者は、気分転換を兼ねて美容院利用を希望され、ご家族と共に外出してパーマをかけたり毛染めをされたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の簡単な下拵えや、盛り付け、配膳、片付け食器洗いを一緒に行っている。	利用者は食材準備や食器洗いなどに参加している。菜園ではトマトやピーマンなどを栽培し、利用者は草取りなどを行なっている。時に寿司、ハンバーガーなどの外食も楽しんでいる。毎食後、歯磨きを励行している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、検食担当が量・味や入居者の反応等を記入している。また、季節に応じた行事食も取り入れている。個別記録に一日の食事や水分摂取量と共に摂取時の状況も記入することで状況把握ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄を実施している。できる部分は自分で洗ってもらい、不十分な所を職員が手助けするようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせ、トイレでの排泄介助を行っている。失禁回数を減らせるよう、個々の排泄間隔を意識して、トイレ誘導をすすめている。	一人ひとりの排泄をチェックしながら現状を改善できるように支援している。献立の食材の配慮や、朝の牛乳の摂取、午後からのうららか体操の実施などによって、薬に頼らない便秘の解消に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫と、毎朝乳酸菌飲料を提供している。状況を看護師に申し送り、便秘薬の調整を行っている。また、日に一度以上は施設独自の体操を行っており、体を動かす機会を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯・週2回以上入浴実施とする設定はあるものの、強制はせずその日の状態に応じて気分良く入浴できるよう心掛けています。	入浴が嫌いな利用者に対しては、言葉かけを工夫するなど入浴してもらえるように配慮しているが、清拭等で代用することもある。リハビリ用の入浴剤を使用している。入浴では、介助しないまでも職員1名がそれぞれの方法で必ず見守るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や現状に合わせて個別対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋記録を作成し、職員が閲覧できるようになっている。看護師からの申し送りを受け、全職員が服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、特技などを把握して、今できていることが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	好天時には、できるだけ戸外にでかけるようにしている。 地域の人々との連携までは至っていない。	天気の良い日はなるべく近隣の公園や神社などに出かけるようにしている。また、日用品や食材の買出しに、近くの大型スーパーまで出かけることもある。下校時の小学生と出会うのがうれしいといった様子も見られている。外食や、地元公園での花見・なべっこなども楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入所者はいないため、買い物の際はお金をご本人に渡して、ご本人より支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親類からの電話の取次ぎや年賀状、手紙のやりとりは実施できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、行事等を意識させる工夫をしていると共に時間帯を意識させる調光、音量を心掛けている。	食堂のすわり心地の良い椅子、ソファのあるTVコーナー、畳スペースもあり、大きな窓からは菜園・花畑を眺めることができる。月毎の大きなカレンダーを皆で手分けして作成し、貼り絵をする人、文字を書く人とそれぞれの得意分野を發揮している。掃除が行き届き、消臭剤等も利用しながら、快適空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファを対面で設置し、食事時間とは別な休憩場として利用できるようにしている。向かい側、隣同士と座る位置と共に馴染みの関係をつくるきっかけとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、できるだけ自宅で使い慣れた家具や小物等を持ち運んでもらうように説明している。 行事やレク、散歩時には積極的に撮影をし、出来上がった写真をご本人に選んでもらい居室や普段目につく所に貼るようにしている。	各室の入り口には暖簾が使用され、プライバシーに配慮されている。2階の廊下の動静はモニター画面で1階の職員に伝わるようになっている。各室は、利用者の個性が良く分かるしつらえで、写真や絵を飾ったりしており、調度品の持ち込みもそれぞれその人らしいものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた条件の中、安全を考慮しながらも自立を見守り、かつゆったりした時間を保てるような対応を継続している。		